

授 業 科 目 の 概 要			
(ウェルビーイング研究科ウェルビーイング専攻(修士課程))			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コア 科目 群	ウェルビーイング学特論	<p>ウェルビーイング学の基本と最先端についての講義を行う。ウェルビーイングとは、健康、幸せ、福祉を横断する概念であり、体と心と社会の良い状態を指す。このため、心理学、医学、社会学をはじめ様々な分野で最先端研究が行われている。大学院科目の中心となる本科目では、様々な学問分野の切り口からウェルビーイング学の基本と最先端について理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(1 前野 隆司/7回) 人文科学、社会科学から自然科学にまたがる分野横断的視点からウェルビーイング学の基本と最先端について概説する。</p> <p>(6 菅原 育子/7回) 社会学を中心としたウェルビーイング学の基本と最先端について概説する。</p> <p>(7 稲葉 俊郎/7回) 医療・福祉学や健康科学を中心としたウェルビーイング学の基本と最先端について概説する。</p> <p>(15 吉野 優香/7回) 心理学を中心としたウェルビーイング学の基本と最先端について概説する。</p>	オムニバス方式
	対話実践論	<p>現代社会において、個人と社会、地球のウェルビーイングを実現するためには、自分と他者、自然との対話を通じての深い理解と共感、そして、そのすべてとの繋がりが既にそこにあることを思い出すことが必要不可欠となる。この授業では、対話の基本原則を学び、違いを知り、違いを活かす対話の技術を身につけると共に、多様な価値観や視点を受け入れる力を養いながら、自然との関わりや身体性を通じて、より深く豊かな対話の実践を追求する。人間が自然環境の一部であること、自分自身が豊かな自然そのものであることを実感し、社会におけるウェルビーイングを実現する在り方と実践的なスキルを身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己/相互理解とチームビルディング</li> <li>対話の意味とウェルビーイングとの関係</li> <li>対話の原理原則と基本技術</li> <li>対立や葛藤のある状況での対話</li> <li>オンライン対話の技術</li> <li>空間/環境設計と対話の場作り</li> <li>実践演習</li> </ul>	
	ウェルビーイングの哲学・宗教学特論	<p>幸せ・生きがい・安心・福祉・健康・平和などの多義を包括するウェルビーイングについては、古くはアリストテレスやブッダの時代より、西洋哲学、東洋哲学、宗教学などの分野で長く議論されてきた。これらの結果は近年の最先端ウェルビーイング科学と関連する部分も少なくない。このため、ウェルビーイング学を学ぶものにとって、哲学・宗教学的ウェルビーイングについて学ぶことには深い意義がある。多面的に哲学・宗教学的ウェルビーイングについて学ぶために、オムニバス形式で講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(3 小林 正弥/4回) 政治哲学について、ポジティブ心理学と関連づけながら教授する。</p> <p>(4 西本 照真/3回) 建学の精神とウェルビーイングについて教授する。</p> <p>(10 松本 紹圭/1回) 仏教学とウェルビーイングについて教授する。</p> <p>(16 一ノ瀬 正樹/3回) 西洋哲学におけるウェルビーイングの哲学について教授する。</p> <p>(17 下田 正弘/3回) 東洋哲学、仏教学、デジタル人文学について教授する。</p>	オムニバス方式
	医療・福祉のウェルビーイング特論	<p>本科目では、個人がその人らしい健康な生活を送れるようにするにはどのようなケアと方略が必要か、また個人をとりまく組織・地域の健康増進のためにはどのようなシステムをデザインしていけばよいのかについて、医学・看護学・社会福祉学の側面から考え、討論し、実践につなげることを目的としている。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(2 秋山 美紀/3回) 看護学を中心としたケアとウェルビーイング。</p> <p>(7 稲葉 俊郎/4回) 医学を中心としたケアとウェルビーイング。</p> <p>(8 グスタフ・ストランドル/3回) 社会福祉学を中心としたケアとウェルビーイング。</p> <p>(14 楠 聖伸/4回) 社会福祉学を中心としたケアとウェルビーイングとシステムデザイン。</p>	オムニバス方式
	ウェルビーイングイノベーション特論	<p>ウェルビーイングに満ち溢れた未来をデザインするためには、イノベーションにつなげるための思考やイノベーション工学の方法並びにデザイン思考を学んでおくことが不可欠である。本科目では、イノベーション工学の考え方の理解を深めるとともに、イノベーションにつなげるための方法について学ぶ。さらにイノベーションとウェルビーイングの関係について学ぶ。</p> <p>また、ウェルビーイングに関連する問題の構造化や可視化など全体俯瞰を行う講義・演習を通して、学んだ手法を活用し目的に応じたプロセスを体験し、ウェルビーイングに満ち溢れた未来デザインにつなげる方法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(5 保井 俊之/7回) 社会システムを中心としたウェルビーイングイノベーション。</p> <p>(12 浦谷 裕樹/3回) 教育を中心としたウェルビーイングイノベーション。</p> <p>(14 楠 聖伸/4回) 福祉・地域を中心としたウェルビーイングイノベーション。</p>	オムニバス方式
	ウェルビーイングアート特論	<p>広義のアートは芸術、人文科学、リベラルアーツを含む。AIをはじめとした最先端科学技術の進展に伴い、これからの人間はより人間らしく、個性、創造性、感性を發揮してウェルビーイングに生きる方向に向かうであろう。このため、自己表現の一つの形としてのアートを理解することは重要である。本科目では、絵画、写真、書道、音楽、身体表現、文学、美術、その他人文学をはじめとするアートの最先端を理解し、人間性の表現とウェルビーイングの関係について深く学ぶ。なお、アートの専門家やプロフェッショナルをゲスト講師に招き体験的に学ぶ機会も設ける。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)</p> <p>(1 前野 隆司/7回) 美学、文学、絵画、身体表現などを対象にアートの理論の最先端とウェルビーイングについて解説するとともに、アーティストや研究者をゲスト講師に招いてアートを創造的に体験する。</p> <p>(7 稲葉 俊郎/7回) 芸術祭の芸術監督の経験を交えてアートについて解説する。また、医療と美の関係についても解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コア科目群	地球視点のウェルビーイング特論	本科目では、人間と社会のウェルビーイングは地球のウェルビーイングなしには成り立たない、という視点に立つ。その上で地球から生まれた生命としての感性を取り戻し、自然から学び日常に活かす心と身体の技法を学ぶ。自然体験から生態系の様相を洞察し、心を動かして考えることで、現在から将来世代に及ぶウェルビーイングが実現する地球人としての人間社会のデザイン力が育まれる。具体的には、担当教員が森のリトリートなどで培ってきた知見やディープエコロジーの基本的な手法を学ぶものとする。	
選択科目群	ポジティブ心理学特論	ポジティブ心理学研究における知見の創出および社会還元の実行のためには、最新の研究論文を通して研究動向や社会還元の可能性に対する感度を高める必要がある。論文の講読と発表に加え、発表者とオムニバス担当者との対話を行うことで研究者、実践者として求められる研究知見への向き合い方や新奇性の高い視点を獲得する。  (オムニバス方式/全14回) (2 秋山 美紀/5回) コンパッション・セルフコンパッションを中心としたポジティブ心理学研究について教授する。 (9 島田 由香/5回) 実践的・実用的観点からのポジティブ心理学の実践について教授する。 (15 吉野 優香/4回) 心理学分野における基礎研究的観点からポジティブ心理学研究について教授する。	オムニバス方式
	教育のウェルビーイング特論	幼児教育、初等・中等教育、高等教育、社会人教育において、ウェルビーイングな教育とはどういったものであろうか。既存の教育の在り方 (being) や方法論 (doing) を踏まえつつ、教師や保護者の在り方をはじめ、学ぶ者との接し方、授業の在り方、教室運営や学校運営をよりウェルビーイングなものにするための方法論などをウェルビーイング学や教育心理学、様々な実践事例を基に学ぶ。また、対話やワークを交えながら学生の問題意識に即した独自のウェルビーイング教育論と手法について学ぶ。  (オムニバス方式/全14回) (12 浦谷 裕樹/7回) ウェルビーイング教育の基礎と応用。 (20 梶谷 希美/7回) 自己受容と他者信頼をベースとした教育の実現。	オムニバス方式
	地域のウェルビーイング特論	本科目では、地域社会におけるコミュニティのウェルビーイングに関する理論を学び、実践事例を通じて理解を深める。はじめに、地域のウェルビーイングに関わる、人と人のつながり、自然とのつながり、地域愛着及び地域活性化などの基礎概念を理解する。次に、社会、経済、環境の三つの視点から地域課題を分析し、これを解決することでコミュニティのウェルビーイング向上に貢献する事例を考察する。また、国や地方自治体の公共政策の役割、住民・企業・自治体といった地域の主要ステークホルダー間の社会システムとしての相互作用にも注目し、グループワークやフィールドワークを用いて具体的な事例研究を行う。これにより、地域のウェルビーイングをデザインする能力を養い、地域社会に貢献する実践的な課題解決力を涵養する。  (オムニバス方式/全14回) (5 保井 俊之/7回) 地域におけるウェルビーイングデザインの理論及び先導モデルの事例分析。 (9 島田 由香/4回) 地域における多様なワークスタイルの実践によるウェルビーイング実現の事例分析及びフィールドワーク。 (22 高野 翔/3回) 地域の場合の形成と実践によるウェルビーイング実現の理論と事例分析。	オムニバス方式
	働くウェルビーイング特論	幸せな従業員は創造性、生産性が高く、欠勤率、離職率が低いなどの研究結果が明確となっている。現代社会において、働くウェルビーイングが注目を集めている。健康経営、働き方改革、人的資本経営などの文脈からも、働く幸せの重要性が高まっている。このため、経営層や人事・総務の者、ないしは人事コンサルタント・経営コンサルタントに携わる者は働く幸せについての知見を深めることが不可欠となっている。本科目では、働く現場におけるウェルビーイングの計測法、向上法、課題について学ぶ。また、様々なウェルビーイング経営実践事例についても理解を深める。	
	自然環境とウェルビーイング特論	本科目では、自然体験を通じて人類の進化的背景と生態系との深いつながりを再認識し、ウェルビーイングの本質を探究する。自然が身体的・精神的健康に与える影響を体感するとともに、生態系の健全性が人類の幸福に直結することを理解し、持続可能な共生の在り方を考察する。また、自然との触れ合いを日常生活に活かす具体的な方法を学び、個人の内的変容と社会的責任を促す実践力を育む。  (オムニバス方式/全14回) (11 山田 博/5回) 自然環境や地球と深くつながるための体験と実践。 (13 中村 一浩/5回) 自分、他者、自然との対話的関わり合いに向けた理論と実践。 (23 高山 範理/4回) 自然との持続可能な共生の在り方に向けた理論と事例分析。	オムニバス方式
	ウェルビーイング経営特論	ウェルビーイング経営とは、従業員と社会のウェルビーイングを重視する経営である。少子高齢化社会にあって優秀な従業員を採用し長期的に雇用し続けるためにも、利益や売り上げを伸ばすためにも、ウェルビーイング経営は経営上の主要項目の一つとなりつつある。本科目では、ウェルビーイング経営の実践者と、ウェルビーイング経営の研究者によるオムニバス講義を行う。多面的な研究結果と最新の実践事例を学ぶことによりウェルビーイング経営の基本を身につける。  (オムニバス方式/全14回) (21 栗原 志功/7回) ウェルビーイング経営者の視点からウェルビーイング経営について述べる (24 前野 マドカ/7回) ウェルビーイング研究者の視点からウェルビーイング経営について述べる	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択科目群	ファイナンシャル・ウェルビーイング	<p>ウェルビーイングを考える際に、事業体や人生における収入と支出のバランスを計画的に設計することが重要である。このため、近年、ファイナンシャル・ウェルビーイングの考え方が脚光を浴びている。本科目では、その道の第一人者である教員が、ファイナンシャル・ウェルビーイングの最先端について講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)  (5 保井 俊之/7回) 経済の視点からのファイナンシャル・ウェルビーイングについて講義する。  (18 井戸 照喜/7回) 家計のバランスという視点からのファイナンシャル・ウェルビーイングについて講義する。</p>	オムニバス方式
	ウェルビーイングコーチング特論	<p>傾聴や質問により対象者の考えを明確化するコーチングが幸福度を向上させる介入であることはこれまでの多くの研究によって明らかにされている。このため、本科目では、コーチングの基本を学ぶとともに、実際にコーチングを受ける体験やコーチングを主体的に行う体験により、コーチングの基本を修得することを目的とする。具体的には、コーチングの基本理論の理解、実践、自己探究の推進、倫理、文化的多様性の理解について学ぶ。</p>	
	ウェルビーイング特別講義	<p>ウェルビーイング学は学際的な学問であり、応用分野は幅広い。それぞれの分野でウェルビーイング研究の第一人者となっている碩学を招聘し、あらゆる角度から「ウェルビーイングとは何か」「個人・社会・地球のウェルビーイングを実現する理論と方法の最新研究」について講演する。質疑応答や対話を交えながら、ウェルビーイングに関する幅広い教養を身につけていくとともに、ウェルビーイングの本質を追究していく。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)  (12 浦谷 裕樹/7回) 主に理系のウェルビーイング研究者の登壇の際のファシリテーションを担当する。  (14 楠 聖伸/7回) 主に文系のウェルビーイング研究者の登壇の際のファシリテーションを担当する。</p>	オムニバス方式
研究関連科目群	ウェルビーイング研究方法論	<p>ウェルビーイング学はさまざまな学問分野にまたがる。このため、各分野における研究の方法について各教員より紹介する。これによって、さまざまな研究の共通点と相違点を理解し、学問分野を超えた研究者として活躍するための基礎を築く。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)  (1 前野 隆司/1回) 本科目の全体像および工学系の研究方法論について担当する。  (2 秋山 美紀/1回) 看護系の研究方法論や質的研究などについて担当する。  (16 一ノ瀬 正樹/1回) 西洋哲学の研究方法論について担当する。  (4 西本 照真/17 下田 正弘/10 松本 紹圭/1回) 東洋哲学や仏教学における研究方法論について担当する。  (5 保井 俊之/1回) 社会科学における研究方法論について担当する。  (6 菅原 育子/1回) 社会学、社会心理学における研究方法論について担当する。  (7 稲葉 俊郎/1回) 医学における研究方法論について担当する。  (8 グスタフ・ストランデル/1回) 介護における研究方法論について担当する。  (9 島田 由香/1回) 地域活性化における研究方法論について担当する。  (11 山田 博/1回) 自然との対話における研究方法論について担当する。  (12 浦谷 裕樹/1回) 教育学における研究方法論について担当する。  (13 中村 一浩/1回) 自分との対話における研究方法論について担当する。  (14 楠 聖伸/1回) 社会福祉における研究方法論について担当する。  (15 吉野 優香/1回) 心理学における研究方法論について担当する。</p>	オムニバス方式 ・ 共同(一部)
	ウェルビーイング文献特論	<p>研究を行う際に重要な項目の一つは多くの研究論文を読んで過去の研究の体系を理解することである。ウェルビーイングの研究においても同様である。このため、本科目では論文の基本的な読み方について講義するとともに、各自が読んできた論文について発表しあうことにより相互にさまざまなウェルビーイング関連論文について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全14回)  (1 前野 隆司/4回) 工学系、自然科学系を中心に全分野の論文について担当する。  (2 秋山 美紀/3回) 主に医療・福祉系やポジティブ心理学系の論文について担当する。  (5 保井 俊之/4回) 主に社会科学系の論文について担当する。  (6 菅原 育子/3回) 主に社会学系、社会心理学系の論文について担当する。</p>	オムニバス方式
	修士研究	<p>修士研究では、世界の人類と動植物の幸せを目指す学問分野横断的なウェルビーイング学体系の中での自らの研究の新規性・独創性を明確化するとともに、その研究を鋭意実行し、結果を適切にまとめ、戦略的に発信する力を養う。 各教員は以下の専門分野を担当する。</p> <p>(1 前野 隆司) 工学系、システムデザイン  (2 秋山 美紀) 看護系、質的研究  (3 小林 正弥) 哲学、ポジティブ心理学  (4 西本 照真) 仏教学、東洋哲学  (5 保井 俊之) 社会科学全般  (6 菅原 育子) 社会学、社会心理学  (7 稲葉 俊郎) 医学やアートにおけるウェルビーイング  (8 グスタフ・ストランデル) 介護  (9 島田 由香) 地域活性化  (10 松本 紹圭) 仏教学  (11 山田 博) 自然との対話  (12 浦谷 裕樹) 教育学  (13 中村 一浩) 対話学  (14 楠 聖伸) 社会福祉学を中心としたウェルビーイングとシステムデザイン  (15 吉野 優香) 心理学  (16 一ノ瀬 正樹) 西洋哲学  (17 下田 正弘) 東洋哲学、仏教学</p>	